

# 看護の質保証と時間の効率化をめざして —正常産褥婦へのクリニカルパスの導入—

小泉由貴美、藤井 厚子、伊藤 律子、晃昇とも子、荒川美和子

札幌社会保険総合病院 看護部

当院では、昨年から医療の効率化を目指して、クリニカルパス小委員会を設置しクリニカルパスを各病棟で導入した。産婦人科では、正常産褥婦のクリニカルパス（以下パスと略す、図1）を、昨年の11月から導入した。今回、看護スタッフへの調査とパスを含めた看護記録の調査をした。結果、看護の質変化と時間の効率化が図れたので報告する。

キーワード：クリニカルパス、褥婦、看護の質

## 方 法

### 1. 産婦人科呼吸器科病棟看護スタッフへのパスについてのアンケート調査（助産婦：12名 看護婦：

医療者用 正常産褥 氏名：		受け持ち MW / NS :						
		分担当日	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
1. 治 療	・悪露交換 ( ) 内 股 分娩直後まで 出 血 量 出血量 処 置	・悪露交換					・体重測定	・退院 血圧測定
2. 検 査	・T・P・BP・浮腫	・CBC		・CBC		・尿糖・蛋白・CBC		
3. 宗 養	・常食B (2000kcal) ・夕食に祝膳							
4. 活 動	分娩6時間歩行確認 ( ) ・歩行後フリーアクセス	・シャワーオン	・授乳可能	・母子同室開始				
5. 排 泌	分娩6時間後自尿確認 ( ) ・排便失禁の確認 分娩6時間後自尿なければ導尿 日中3~4h毎に排尿						・継続的導尿	
6. 清 潔	・外陰部の清潔 (ビデかウォッシュレットの使用・ナプキン交換) ・分検後の清掃							
7. 教育・指導	・産褥期アドバイザリーショップ ・産褥期の経過とスケジュールの説明 ・必要なセルフケアの説明 ・体位の必要なもの説明 ・異常徵候の説明 (外陰部の疼痛・悪露・出血量と性状) ・内腔指標 (必要性・副作用・内腔方法)			・沐浴指導 ( ) ・産褥指導 ( ) 個別				・必要時家族への指導 ・必要時地域へ連絡
8. 乳房観察	母乳希望	・母乳	・授乳	・授乳	・授乳	・授乳	・授乳	・授乳
9. 乳房と母乳栄養の教育・指導		・初回吸搾 分娩1h後	・母乳・同室指導	・セルフケアの ・基礎的マッサージ指導 ・産褥指導	・退院後の持乳指導 ・アソシル、ブレーキ、トラブル ・母乳指導 ( / )			
10. 看護方針	1) 正常産褥による生理的復古を促進 (阻害や感染防止)	・胎盤の裏が正常である…赤多・100ml ・子宮収縮・硬さが保たれている…FS1~2 …FS 2~3	・赤色・中・30ml	・薄い赤褐色 30ml以下				
2) 産褥による心身の支障の予防	・マタニティーブラフの理解とセルフケアができる ・産褥期の問題に対する理解と対応策 (基礎知識)							
3) 乳房変化の知識とSMCの自己管理の習得	・産後へのセルフケアができる ・産褥後を表すことができる							
4) 田舎医療の成立のためと田舎医療の習得	・伴走可能なセルフケアを理解、実行できる ・SMCのマッサージの必要性を理解、実行できる ・乳房の変化にまつわるマタニティーブラフに対応できる (内腔指標・乳汁・母乳・外陰)							
11. 特記事項								
12. バリアンス # (解決日)	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	
13. 各勤務者 サイン								

図1 医療者用正常産褥クリニカルパス

表1 パスを使用した看護スタッフの背景

	人 数	平均臨床経験年数	該当病棟における平均在任年数
助産婦	12名	3.3年	2.8年
看護婦	4名	8.0年	1年未満
合計	16名	平均 4.4年	

4名 合計16名 表1)

2. 平成10年11月から平成11年3月までに、当院で正常分娩した褥婦のパス100枚とその看護計画用紙・入院経過用紙の調査。

## 結 果

1. 看護スタッフへのアンケート調査には、パスに関する19の設問があり、設問に「はい」と答えた上位8項目を、図2に示す。さらに、パスが該当セクションの褥婦のケアを包括していると、13名(81.3%)が答えている。

### 2. パスの調査

調査したパス100枚の背景は、初産52名・1経産33名・2経産以上15名。

1) パスの中で記入が必要な10項目では「患者の名前」が100%記入され、次に「子宮底長」「尿意確認」92%と続く。

2) バリアンスの有無をチェックしている割合を分娩後日数別にみると、分娩後4日目が70%と最も効率である。これは、退院前のカンファレンスが

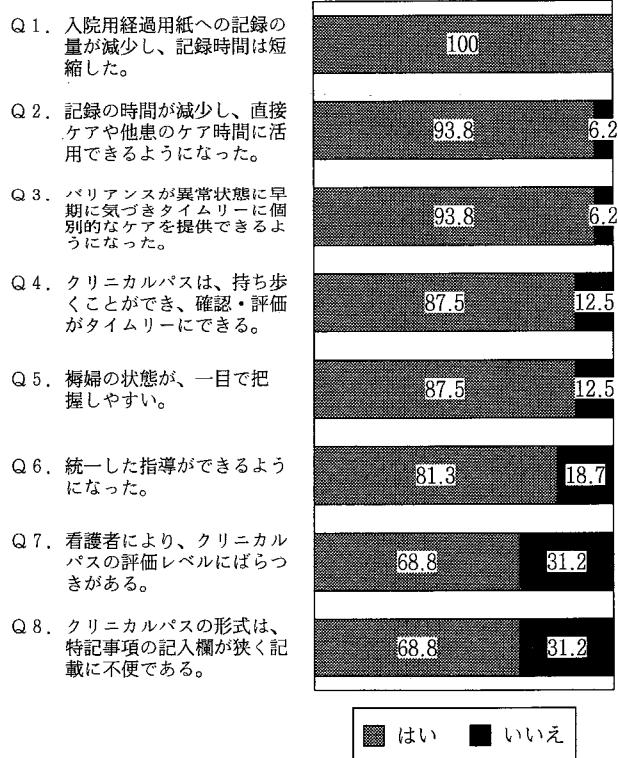


図2 看護スタッフアンケート調査結果(N=1)

あり判断を容易にしていると考えられる。

3) 特記事項に記載されていた内容で最も多いのは、「観察」42.9%で、分娩後4日目が最も多いためからも、乳房の状態や、授乳に関する変化が多かったことが分かる。

4) 看護方針の達成状況をみると、分娩後2日目以降から、100%近い達成を示している。

これは、パスの看護方針が榛婦のケアに適した内容になっているといえる。さらに、看護スタッフの職能や経験年数に左右されずに、パス内容のケアが提供できていると考える。

5) 看護計画用紙の記載枚数は、1枚以下29% 2枚以下13%・3枚以上が2%となっているパス導入前は、全員に計画立案していたが、パス導入後は、バリアンスの生じた44%の立案に止まっている。看護計画用紙の記載枚数が減少した事で、計画立案に要する時間を短縮できた。

6) 入院経過用紙の記載枚数は、パス導入前は約3ページだったが、パス導入後は、1ページ以下が、47%になっている。(図3)

6日前後の入院で、用紙が1ページ以下になった事は、確実に記録の時間短縮が図れた。

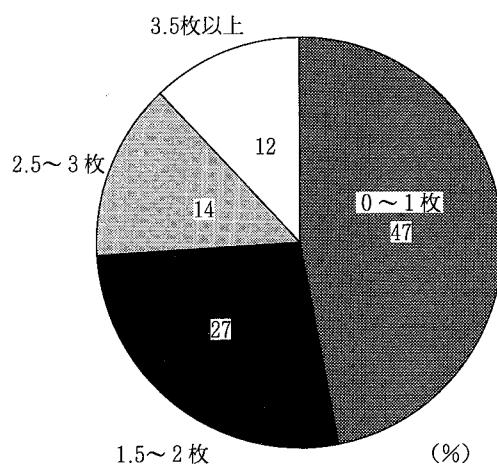


図3 入院経過記録用紙記載のページ数

### 考 察

パスの導入後、今回の調査結果から職能や臨床経験年数を問わず、パス内容のケアを提供できることがわかった。榛婦のセルフケア達成の程度や看護問題も一目で把握しやすく助産婦でなくとも乳房ケアや育児に関する教育が可能なこともわかった。

妊娠期からターミナル期の急性期混合病棟において、パスは対象とケアの進行状況を1枚の用紙で把握できる。

看護計画用紙と入院経過用紙の記載量が減少したこととは、記録に取られる時間が短縮でき他の看護ケアに従事することが可能となった今回は、榛婦側からのケアに対する満足度調査を行っていないので看護の質保証としては十分とはいえない。また、記載事項の未記入やバリアンスの有無を判断できていない事も明らかになった。今後は、パス内容と活用方法の検討を含めた、マネージメントシステムが必要である。<sup>1,2,3)</sup>

### 結 論

- 職能や臨床経験・該当セクションの在任期間の年数を問わず、パス内容のケアを提供できた。
- 榛婦のセルフケア達成度や看護問題を一目で把握できた。
- 看護計画用紙と入院経過用紙の記載量が減少し、看護の効率化が図れた。

### 文 献

- 立川幸治・阿部俊子、クリティカルパスわかり

- やすい導入と活用のヒント、医学書院、1999,  
3
- 2) T. ハリトン、岩井郁子他12名クリティカル・  
パスケアの効率性と質の維持、日本看護協会出  
版会、1997, 11, 25
- 3) 笹鹿美帆・菅野由貴子、ナーシング・トゥディ、  
総特集クリティカル・パスの使い方導入から評価  
までの道案内、1998, 5

## For the Assurance of Quality of Nursing and Improvement of Efficacy —introduction of a clinical path of normal puerperal women.

Yukimi KOIZUMI, Atsuko FUJII, Ritsuko ITO

Tomoko KOSHIO, Miwako ARAKAWA

Department of Nursing, Sapporo Social Insurance General Hospital

Koji Tachikawa, et al. Showed 9 advantages of a clinical path, Firtly it enables team medication, another is that improves patient's sufficiency through medication by patient's initiative, Anothen still is that it supplies an instruction tool for staff. These are said to bring assurance of quality of care and avoidance of time loss that in turn improve economic efficacy. A clinical path is introduced in our hospital in order to supply efficient care. The clinical path for normal puerperal women was designed and introduced to the ward of obstetrics, gynecology and respiratory medicine. That enabled to improve the quality of nursing and efficacy of time.

---